

FOUNDATION FOR A  
SMOKE-FREE WORLD

財団報告書シリーズ  
農業と生計

# Global Trends in Tobacco Production and Trade

Romita Shah、Dianna Bartone、  
Richard Ferguson 共著



## 謝辞

西スコットランド大学スクール・オブ・ビジネス・アンド・エンタプライズにおける企業および経済開発にかかるアフリカ調査センター(CAREED)の教授兼理事であり、Foundation for a Smoke-Free Worldの「農業と生計」チームのアドバイザーであるJohn Struthers 博士、ならびに、当財団の「調査と科学」の理事を務めるMichael Johnson 博士に本報告書を校閲していただいたことに謝意を表します。当財団会長のデレク・ヤック博士および当財団「農業と生計」のバイスプレジデントであるJim Lutzweiler 氏の力添えがなければこの報告書は日の目を見なかったことでしょう。

## 概要

過去 20 年にわたり、世界のたばこの生産と貿易の傾向は劇的な変化を遂げてきました。たばこ規制グループや公的な保健機関による調査は、たばこの生産に焦点を当ててこのような変化を促す主なトレンドを明らかにしていますが、たばこの貿易についてはほとんど知られていません。世界のたばこ経済とその中の主要プレイヤーについて理解するには、たばこの生産、未加工たばこの貿易、たばこ葉から各種たばこへの処理、製造されたたばこ製品の取引と消費などを含め、たばこのサプライチェーンの全段階にわたって徹底的な知識を得ることが必要です。他の日用品同様、たばこにも独自かつ進化し続けるサプライチェーンがあるためです。本報告書では未加工たばこ葉の生産と貿易における傾向を理解することに主眼を置きます。

まず過去 20 年間にわたるたばこ生産における主要なトレンドから取り上げます。たばこの生産が欧州や北米といった高所得国から、アフリカ、アジア、南米の低中所得国に移っていったことは明らかです。とはいうものの、中国、ブラジル、インド、米国を含め、何カ国かは調査対象の期間全般にわたって世界のたばこ生産のトップの地位を保ち続けています。しかし期間に渡り、米国におけるたばこ生産は劇的に減少し、中国、ブラジル、インドといった三大新興国が世界のたばこ生産の大多数を占めるようになりました。これら3カ国の現在の生産高を合わせると、全世界の葉たばこ供給高の3分の2に相当します。

次に本報告書では生産と並行して起こる世界のたばこの貿易のトレンドを概説します。その結果、いくつかの主要なトレンドが明らかになります：

- 世界のたばこ生産地域が移動したことは、世界のたばこの貿易傾向の変化に少なからず影響しています。
- 三大経済国でありたばこ生産の世界トップ3か国として、中国、ブラジル、インドが世界のたばこ供給において顕著かつ明確な役割を演じています。ブラジルと比較すると、中国とインドにおける生産の大半は自国市場向けです(世界的に見てもたばこ消費国なのです)。両国ともにたばこのバリューチェーンに食い込むことに成功し、生産だけではなく製造にも手を広げています。その他の低中所得たばこ生産国も追随したいと強く望んでいるようです。
- たばこの輸出入に関する国ごとの詳細分析を見ると、例えば、中国の輸入高が非常に増加しており、おそらく低中所得国間の貿易(例、ブラジルから中国への輸出)が増加していることを示唆しています。
- 北米および欧州の高所得国は引き続き最大の未加工たばこの輸入国となっています。ベルギー・ルクセンブルグが未加工たばこの最大の輸入国であり、2016年には未加工たばこの輸出でも世界6位でした。輸出入ともに、1996年から大幅に増加しました。この伸びの背景には複雑で様々な要素がかかわっている可能性があり、この点についても本報告書で論じています。

このようなトレンドが将来のたばこ規制の取り組みにどのような影響を与えるか短く考察して本報告書は締めくくられています。

Foundation for a Smoke-Free World(以下「当財団」と言います)からこの種の報告書を出すのは今回が初めてであり、本報告書はたばこの生産と貿易の変わりゆく世界的なトレンドについて概要を紹介することを意図しています。今後出てくる報告書によって分析が深められ、製造たばこ製品やたばこ葉の種類ごとのたばこ生産の内訳が論じられる可能性があり、データが入手可能になれば他の種類のたばこ製品の拡大に関する関連予測も出されることでしょう。例えば、害を

軽減した製品（電子たばこなど）の消費の伸びは、その市場シェアが拡大するのに伴い既にたばこ葉の種類生産と貿易の流れに影響を及ぼし始めています。（例として、ニコチン含有量が高いと報告されているマルバタバコが挙げられます）

## はじめに

世界のたばこの生産と貿易は過去 20 年間に大きく変化しました。この期間における世界のたばこ生産の変化については研究が進んでいますが、たばこの世界的な貿易と取引の流れの変化についてはほとんど知られていません。本報告書はこの不均衡を正そうとする導的な試みです。報告書ではまず手法について短く触れ、世界のたばこ生産の主要なトレンドを概括します。その後、世界のたばこ貿易のトレンドを探り、たばこ貿易の変化とたばこ生産が少なくともどのような相関にあるのかについて特に焦点を当てます。その中で、主要新興国が担っている潜在的で巨大な役割と、「南南」取引を取り上げます。報告書の最後では、このようなトレンドがたばこ規制の取り組みにどのような影響を与えるかについて検証します。

## 手法についての注記

本報告書で使用しているたばこ生産に関する全データは、国際連合食糧農業機関（FAO）の統計データベース FAOSTAT から入手した穀物生産データを参照しています。<sup>1</sup>FAO のたばこの定義は（FAOSTAT コモディティリストのコード 0826）、「未加工の乾燥たばこ、骨を除いていないくずたばこ、または一部または全部骨を除いたくずたばこを含む」としてあります。FAOSTAT は、質問票、政府刊行物、各国ウェブサイトを通して FAO 加盟国からデータを入手しています。

たばこ貿易にかかる全データは、フランス有数の国際経済調査機関である Centre d'Études Prospectives et d'Informations Internationales が作成した世界貿易データベースである Base Pour L'Analyse du Commerce International (BACI)<sup>2</sup>から入手しました。BACI は国連商品貿易統計データベースの輸出国および輸入国の間の差異を調整するために独自の手法を適用しています。国連商品貿易統計データベースにおいても BACI においても、たばこの定義は輸出入統計品目番号（HS コード）に従っています。本報告書における未加工たばこの貿易のデータは、「たばこ、未加工；くずたばこ」（HS-4 コード 2401）のことであり、最大限の期間を利用するために 1992 年版の HS 統計品目番号を使っています。2 つの情報源については、データ収集とデータ処理の手法に違いはあるものの、双方ともに統計品目の定義が完全に一致していることに注目すべきです。BACI、FAOSTAT、または双方の組み合わせからのデータ抽出、グラフおよび地図の作成は PC 向け Stata/SE 15.1 を使用しました。

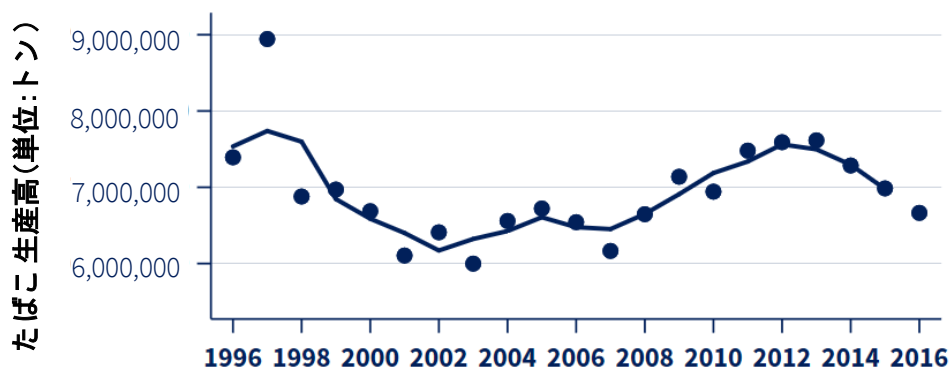
たばこ産業のバリューチェーンにおいては未加工たばこやたばこ葉が上流を象徴するものであるため、本報告書では未加工たばこやたばこ葉に主眼を置いていることにご留意ください。これは、当財団の Agricultural Transformation Initiative（以下「ATI」と言います）の焦点でもあります。

## 世界のたばこ生産の傾向

この 20 年、世界のたばこ生産は毎年大きく変化しているという特徴があります(図表 1)。1996 年から 1997 年にかけて世界のたばこ生産は 740 万トンにわずかに届かないところから、890 万トンまで増加しましたが、1998 年には約 690 万トンにまで落ち込みました。<sup>1</sup> このように年ごとの変動が大きいにも関わらず、世界のたばこ生産の長期的トレンドは横ばいのように見えます。1997 年の 890 万トン近くという生産高を 20 年に 1 度の異常値として除外すると、過去 20 年間の年間生産高は 600 万から 760 万トンの間で推移しています。<sup>1,i</sup>

図表 1

世界のたばこ生産高(1996 年から 2016 年、単位:トン)  
トレンド線は 3 年移動平均



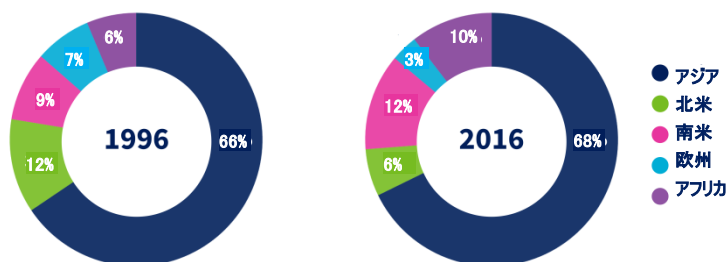
出典: グラフは FAOSTAT のデータを使用して著者が作成<sup>1</sup>

地域レベルでたばこ生産を分析すると、この 20 年で欧州や北米といった高所得国からアフリカ、アジア<sup>ii</sup>、南米といった低所得国への明確な生産地域の移動が見られます(図表 2)。<sup>1</sup> 1996 年から 2016 年にかけて、世界の生産高に占める欧州と北米をあわせた生産高のシェアは 19.2%から 9.4%と半分以下になり、一方でアフリカ、アジア、南米のシェアは 80.7%から 90.5%に増加しました。<sup>1</sup>

図表 1

1996 年と 2016 年の地域ごとのたばこ生産高の割合

この 20 年で、欧州および北米(カリブおよび中米を含む)のたばこ生産割合は縮小し、一方でアフリカ、アジア(オセアニアを含む)、南米は増加しています。



出典: グラフは FAOSTAT のデータを使用して著者が作成<sup>1,iii</sup>

<sup>1</sup> この期間の世界の人口増加を考慮すると、一人当たりのたばこ生産はこの期間を通して減少していることになります。

<sup>ii</sup> アジアにはオセアニアが含まれます。他地域と比較するとオセアニアにおけるたばこ生産はごくわずかです。オセアニアにはミクロネシア、フィジー、ニュージーランド以外のポリネシアが含まれます。

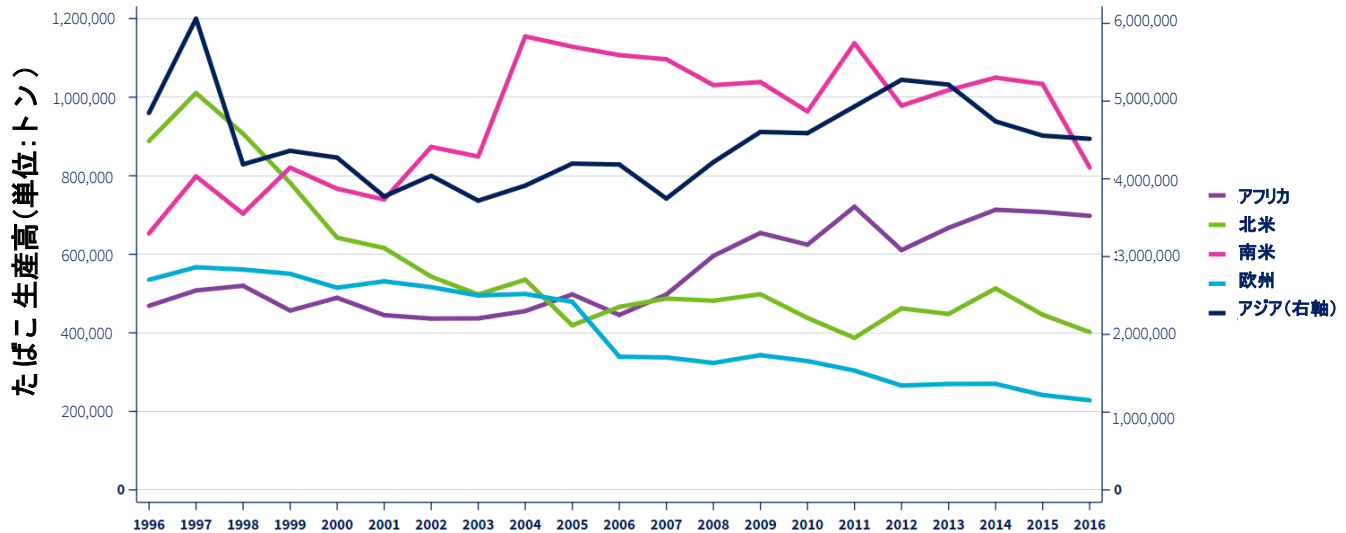
<sup>iii</sup> 四捨五入しているため図表が 100%にならないこともあります。

生産高の絶対レベル(図表 3)も同様に年と共に変化しています。1996 年から 2016 年にかけて欧州のたばこ生産高は 53 万 5,000 トンから 22 万 8,000 トンに落ち込み、同じ期間に北米では 88 万 8,000 トンから 40 万 2,000 トンに減少しました。<sup>1</sup> 双方の地域において、50%以上も生産高が減少したことになります。この同じ期間、アフリカではたばこ生産高が 46 万 9,000 トンから 49%増加して 69 万 8,000 トンに、南米では 65 万 3,000 トンから 26%増加して 82 万 1,000 トンになりました。<sup>1</sup> 同期間、アジアのたばこ生産高は 484 万トンから 451 万トンへと若干減少しました。<sup>1</sup>

図表 2

地域ごとのたばこ生産高のトレンド(1996 年から 2016 年、単位:トン)

たばこ生産は欧州や北米(カリブおよび中米を含む)といった高所得国からアフリカ、アジア、南米といった低中所得国へ移動しました。



出典: グラフは FAOSTAT のデータを使用して著者が作成<sup>1</sup>

生産高の増加は中国、ブラジル、アフリカのサブサハラ地方が牽引しています。サブサハラ地域のジンバブエ(6 位)、ザンビア(7 位)、タンザニア(9 位)、モザンビーク(11 位)、マラウイ(13 位)の 5 カ国は、2016 年時点で世界のたばこ生産国の上位に入っています。<sup>1</sup> これらの国においては、たばこは主要な換金作物であり、地域経済に不可欠な貢献をしています。例えば、マラウイでは 2016 年の総製品輸出の 59%をたばこ輸出が占めており、同国は世界で最もたばこに対する依存度の高い国となっています。<sup>2,iv</sup>

この期間全般において、ブラジル、インド、中国、米国の 4 カ国が世界最大のたばこ生産国の地位を保ちました。<sup>1</sup> ただし、米国が占める割合は期間に渡り低下しています。米国は現在でも世界 4 位の生産高を有していますが、世界のたばこ生産に占める割合は 4%にとどまっています。対照的に、中国の生産高の割合は約 42%、インドは 11%、ブラジルは 10%となっています。<sup>1</sup>

<sup>iv</sup> データは BACI 貿易データベースによるもので、次のように算出されています: 2016 年のたばこの輸出価値 / 2016 年の合計輸出価値 = 550,148,000 / 932,203,000 = .59

## 世界のたばこ貿易のトレンド

世界のたばこ貿易が高所得国から低中所得国に移り、主要経済国が巨大な役割を演じるようになっていきます。

1996年から2016年にかけて、たばこ葉の世界の貿易高は216万トンから235万トンへと拡大しました。これは年平均約2万トンの増加となります(図表4)。<sup>2</sup>未加工のたばこの輸出はたばこのバリューチェーンの最も初期段階のもので、たばこ葉の栽培から始まります。そしてこの栽培は、ますます低中所得国に集中化しています。<sup>3</sup>たばこはその後処理、製造、流通の段階を経て、完成品のたばこ製品として販売されます。

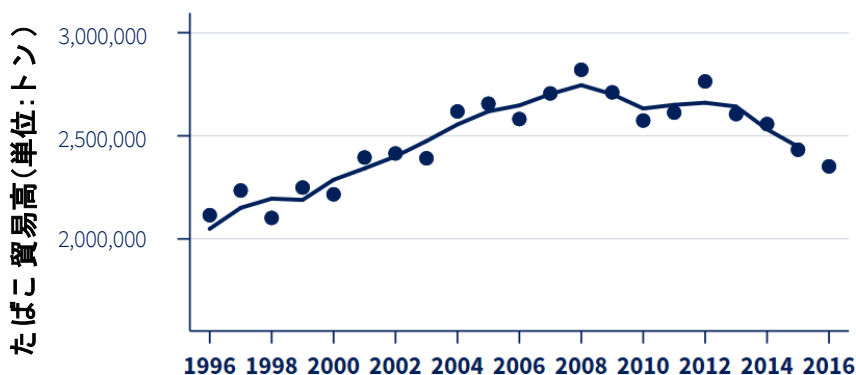
この20年間、たばこ生産は欧州および北米からアフリカ、アジア、南米へと移っていきましたが、この動きは一部貿易の傾向にも表れています(図表5)。<sup>2</sup>北米のたばこ生産の減少を受けて、同地域からの輸出も1996年の34万5,000トンから2016年の20万9,000トンへと減少しました。<sup>2</sup>この減少の要因は多岐にわたるようです。例えば米国においては、次のような要因があると考えられます。アメリカ製巻たばこに含まれるたばこの量が数十年前と比較すると40%減少していること、連邦政府による価格維持プログラムの影響でたばこの栽培が他国と比べると割高になってきていること、1998年のたばこ製造会社と各州の州検事総長との間のたばこ基本和解合意の結果たばこ需要が大幅に落ち込んでいること。<sup>4</sup>

アフリカと南米の生産高の増加と足並みをそろえ、これらの地域からのたばこ輸出も増加を見せています。アフリカからのたばこ輸出は1996年の35万5,306トンから2016年には43万4,799トンに増加し、南米では同時期に37万7,273トンから60万2,671トンに増加しました。<sup>2</sup>この伸びは、これら地域の一握りの国である、ブラジルおよびアフリカの「5大国」であるジンバブエ、ザンビア、タンザニア、モザンビーク、マラウイなどによって主に牽引されています。<sup>2</sup>

### 図表3

世界の未加工たばこの貿易高(1996年から2016年、単位:トン)

トレンド線は3年移動平均

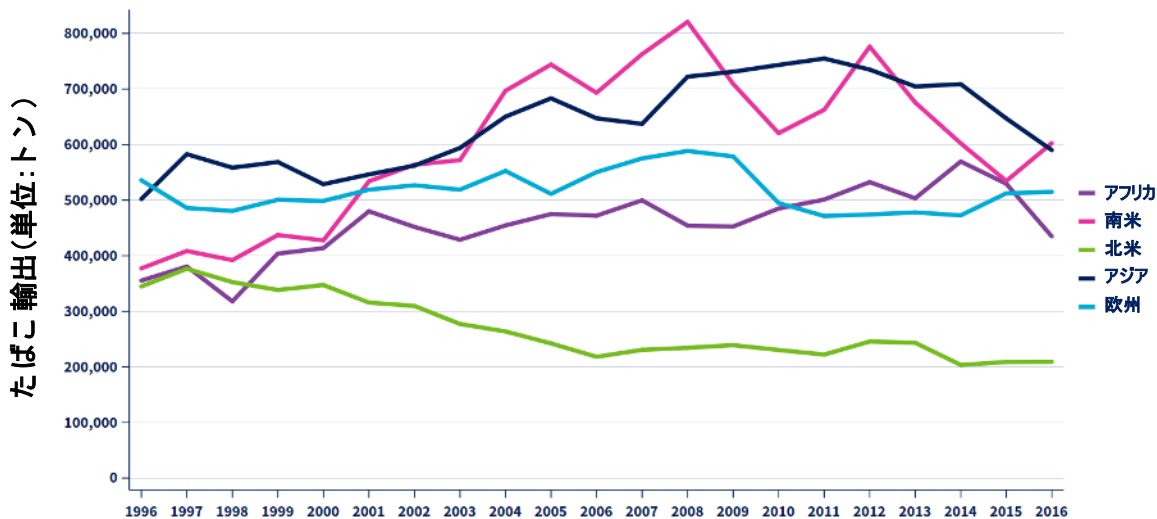


出典: グラフはBACIのデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

図表 4

地域ごとのたばこ貿易高のトレンド(1996年から2016年、単位:トン)

北米(カリブと中米を含む)からのたばこ輸出が減少した一方で、アフリカおよび南米からの輸出が増加しています。アジアからのたばこ輸出は若干増加し、欧州からの輸出は横ばいです。



出典: グラフは BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

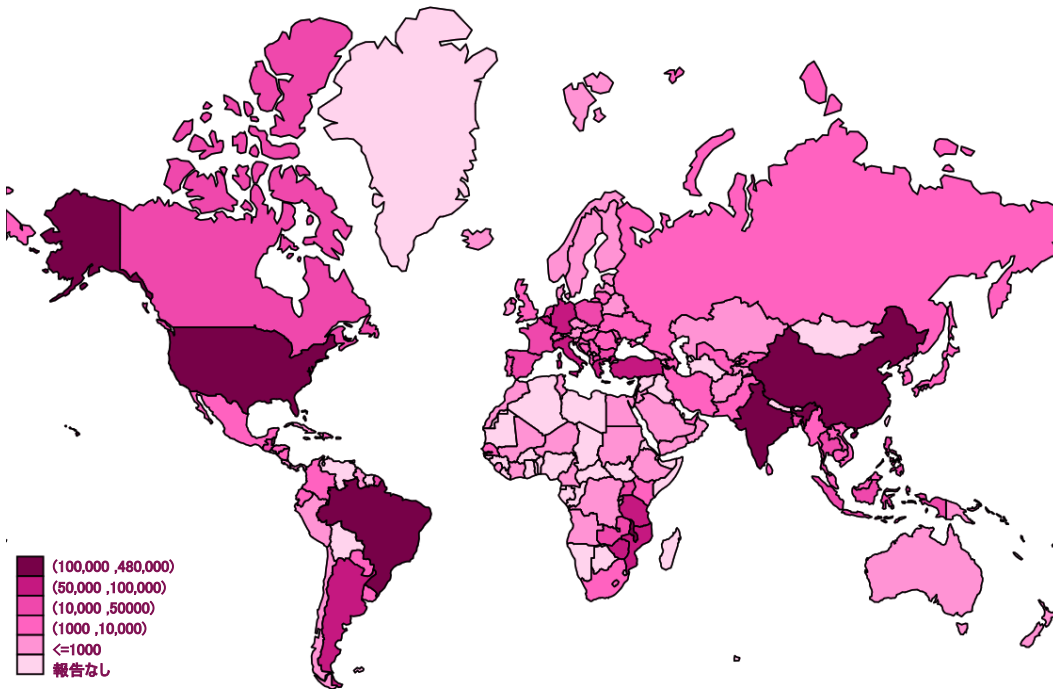
各国レベルでトレンドを分析すると、ごく当たり前のことですが、世界の主要たばこ生産国が世界の主要たばこ輸出国になっています(図表 6)。特に顕著なのがブラジル、中国、インドです(表 1)。調査期間全体を通して、ブラジルが一貫してたばこの最大輸出国であり、中国は 1996 年の 9 位から 2016 年の 3 位にまで浮上しました。<sup>2</sup>一方で、インドは 1996 年の 8 位から 2016 年には 2 位へと急激に順位を伸ばしています。<sup>2</sup>

米国の輸出国としての地位は期間に渡って徐々に低下しています。米国は 1996 年に 24 万 8,939 トンのたばこを輸出し、その年 2 位のたばこ輸出国でした(上回ったのはブラジルだけです)。<sup>2</sup>2006 年までに、輸出高は 17 万 604 トンにまで減少し、輸出高は 3 位になりました(ブラジルおよびマラウイが米国を上回りました)。<sup>2</sup>2016 年までに輸出高はさらに 15 万 2,392 トンまで落ち込んでその年の輸出高 4 位となり、ブラジル、インド、中国が米国を上回りました。<sup>2</sup>これらの国にマラウイを加えると世界のたばこ輸出のトップ 5 になります。<sup>2</sup>

図表 5

世界中の国ごとのたばこ輸出高(2016年、単位:トン)

たばこの最大の輸出国は、輸出高の多い順にブラジル、インド、中国、米国、マラウイとなっています。調査期間全体を通して、ブラジルが一貫してたばこの最大輸出国であり、中国とインドが近年マラウイと米国を追い抜きました。



出典:図はBACIのデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

表 1:

たばこ輸出国上位(輸出高順、1996年、2006年、2016年)

1996年		2006年		2016年	
国	輸出高(トン)	国	輸出高(トン)	国	輸出高(トン)
ブラジル	293,093	ブラジル	567,270	ブラジル	478,857
米国	248,939	マラウイ	184,310	インド	204,307
ジンバブエ	171,702	米国	170,604	中国	161,515
トルコ	158,632	中国	159,512	米国	152,392
イタリア	143,644	インド	157,841	マラウイ	125,789
ギリシャ	139,570	トルコ	127,780	ベルギー・ルクセンブルグ	93,929
マラウイ	107,322	アルゼンチン	103,536	アルゼンチン	92,961
インド	95,695	イタリア	103,391	ジンバブエ	88,204
中国	74,005	ギリシャ	91,844	タンザニア	79,835
アルゼンチン	57,455	ジンバブエ	65,639	イタリア	75,307
合計(全世界)	2,020,682	合計(全世界)	2,445,725	合計(全世界)	2,399,690

出典:表はBACIのデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

## ブラジル

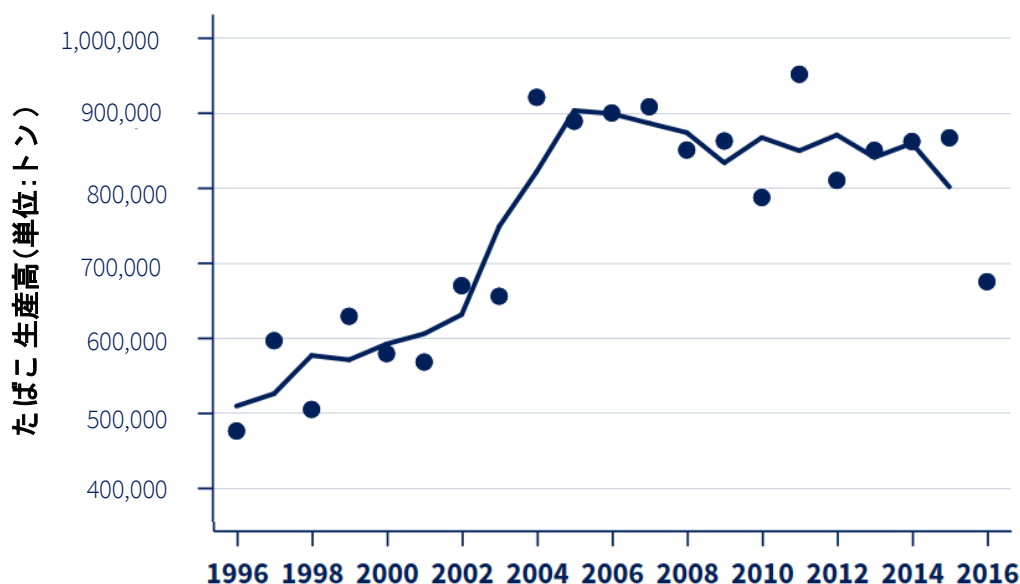
1996年にブラジルは47万7,000トン以上のたばこを生産し、そのうち29万4,000トン(62%)を輸出しました。<sup>1-2</sup>2007年のピーク時点では、90万9,000トン以上を生産し、63万3,000トン(70%)以上を輸出しました。<sup>1-2</sup>以来、生産高は67万6,000トンから95万2,000トンの間を上下し、輸出高は46万トンから68万8,000トンの間を上下しています。<sup>1-2</sup>ただし、生産高および輸出高の全体的なトレンドは全体的に上向きであり、過去20年において生産高は毎年約1万7,000トン増加し、輸出高は毎年1万2,000トン拡大しています(図表7および8)。<sup>v</sup>

ブラジルのたばこ輸出の規模には特に注意を払う必要があるでしょう。過去20年間において、ブラジルは最大のたばこ輸出国で、近年ではたばこ輸出高全体の5分の1を占めています。<sup>2</sup>2016年の上位輸出先は、ベルギー・ルクセンブルグ<sup>vi</sup>(7万8,219トン)、米国(5万3,388トン)、中国(4万2,631トン)、ロシア(3万2,140トン)、ドイツ(1万8,286トン)となっています(図表9)。

### 図表6

ブラジルのたばこ生産高(1996年から2016年、単位:トン)

トレンド線は3年移動平均



出典: グラフはFAOSTATのデータを使用して著者が作成<sup>3</sup>

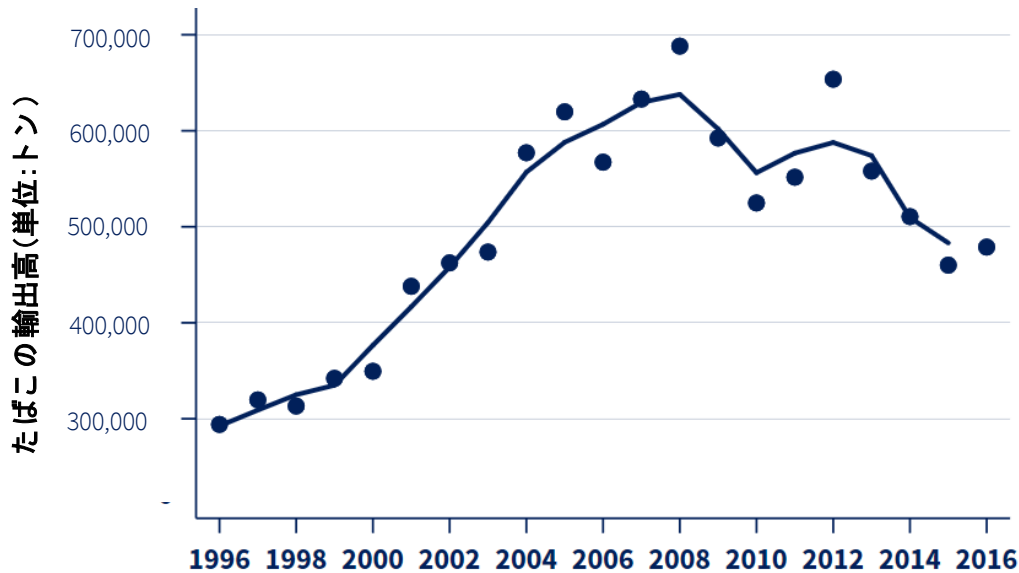
<sup>v</sup> 著者が算出した単純線形回帰による予測。

<sup>vi</sup> データセットではベルギー・ルクセンブルグを1つの主体として扱っています。よって、それぞれの国に対する輸出を区別することはできませんでした。データにある「ベルギー・ルクセンブルグ」向け輸出の大半はベルギー向け輸出が占めると考えられます。ベルギーにはアントワープ港があり、ルクセンブルグは陸地に囲まれていることためです。

図表 7

ブラジルのたばこ輸出高(1996年から2016年、単位:トン)

トレンド線は3年移動平均

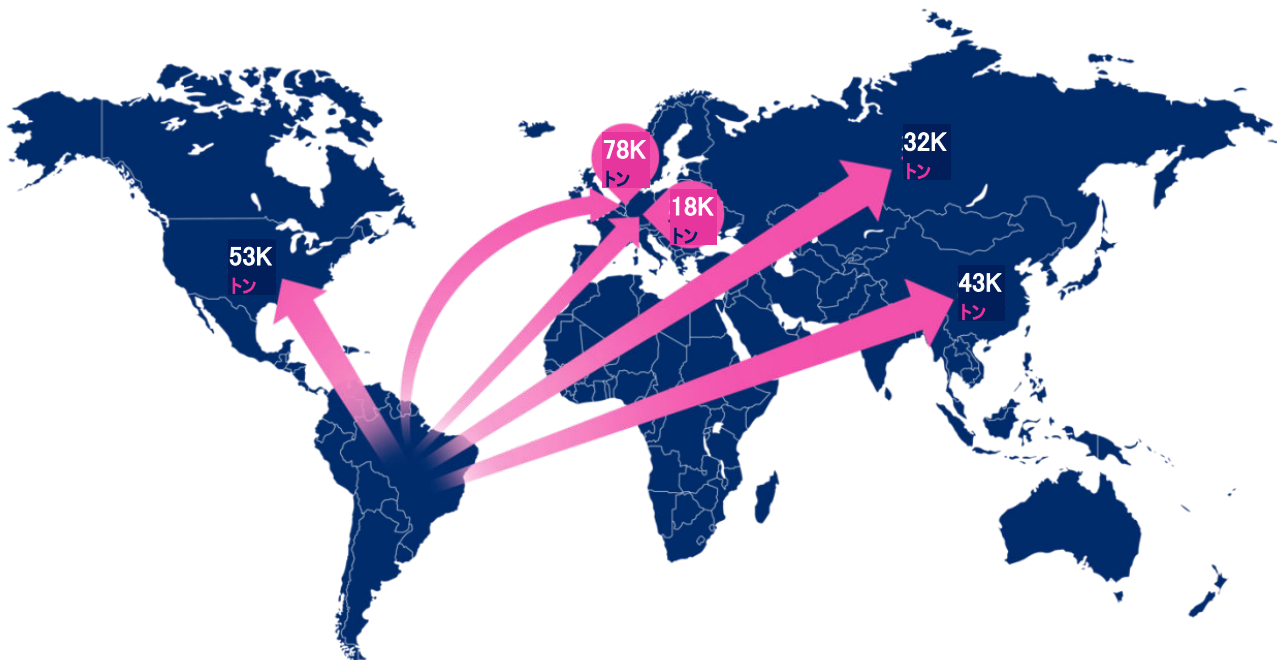


出典: グラフは BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

図表 8

ブラジルからのたばこ輸出先上位国(2016年)

ブラジルからの輸出先の上位は、輸出高の多い順にベルギー・ルクセンブルグ(7万 8,219 トン)、米国(5万 3,388 トン)、中国(4万 2,631 トン)、ロシア(3万 2,140 トン)、ドイツ(1万 8,286 トン)となっています。



出典: 図は BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

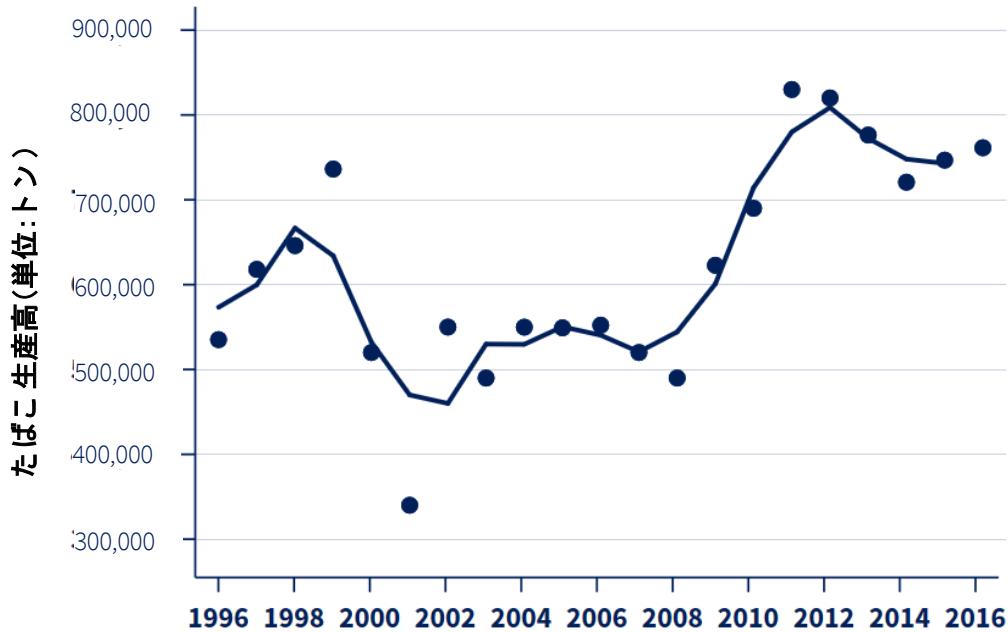
## インド

インドのたばこ生産高は 1996 年に 53 万 5,000 トン以上に上り、9 万 6,000 トン(18%)が輸出されました。<sup>1、2</sup> 生産高と輸出高は年によって大きく上下に変動しているものの、全体的なトレンドとしては増加傾向にあります。過去 20 年間で生産高は毎年約 1 万 2,000 トンずつ増加し、輸出高は毎年約 7,000 トンずつ増加しています(図表 10 と 11)。<sup>vii</sup> 直近では、2016 年のたばこ生産高は 76 万 1,000 トン以上で、輸出高は 20 万 4,000 トン以上となっています。<sup>1、2</sup>

図表 9

インドのたばこ生産高(1996 年から 2016 年、単位:トン)

トレンド線は 3 年移動平均



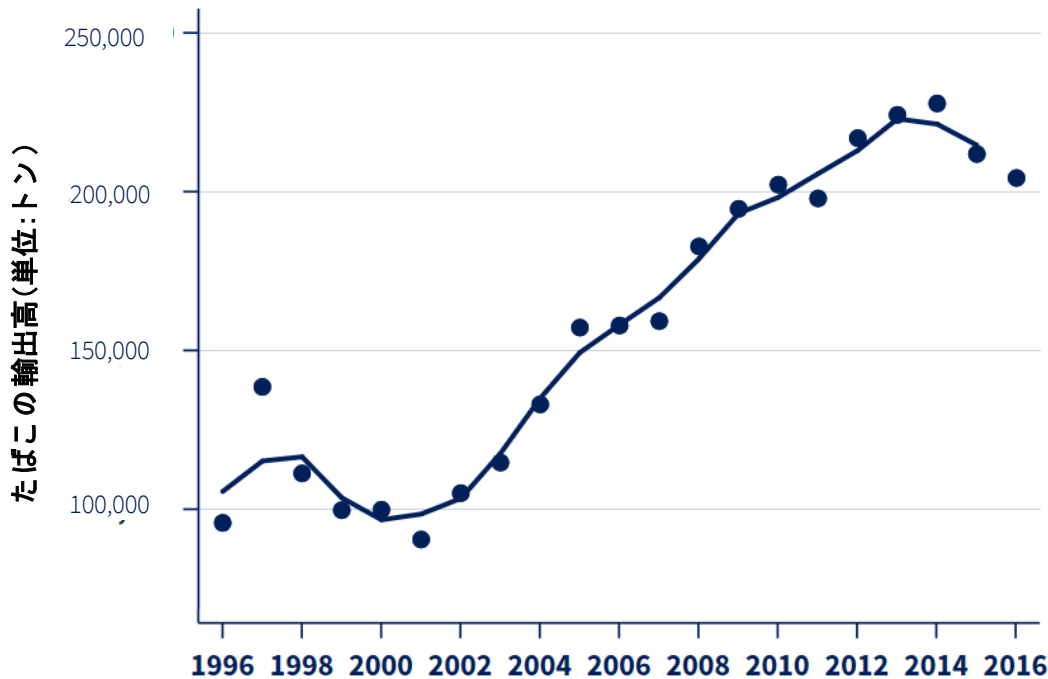
出典: グラフは FAOSTAT のデータを使用して著者が作成<sup>3</sup>

vii 著者が算出した単純線形回帰による予測。

図表 10

インドのたばこ輸出高(1996年から2016年、単位:トン)

トレンド線は3年移動平均



出典: グラフは BACI のデータを使用して著者が作成<sup>v</sup>

## 中国

中国は 1996 年に 323 万 4,000 トンのたばこを生産しましたが、そのうち輸出に回されたのはわずか 7 万 4,000 トンで全体の約 2%にすぎません。翌年に生産高は 425 万 1,000 トンに急上昇したものの、輸出は再び約 2%に留まり、わずか 9 万 1,000 トンが海外に輸送されました。1998 年には生産高は 236 万 4,000 トンに急落しましたが、それ以降の生産高は上昇基調になり、2012 年からは下落しています。この期間、輸出に回されたたばこの割合は 5%から 8%の間にとどまっています。<sup>viii</sup>総じて見ると過去 20 年間で、中国のたばこの生産高は毎年約 1 万 1,300 トンずつ増加し、輸出高は毎年約 5,400 トンずつ増加しています(図表 12 と 13)。<sup>ix</sup>

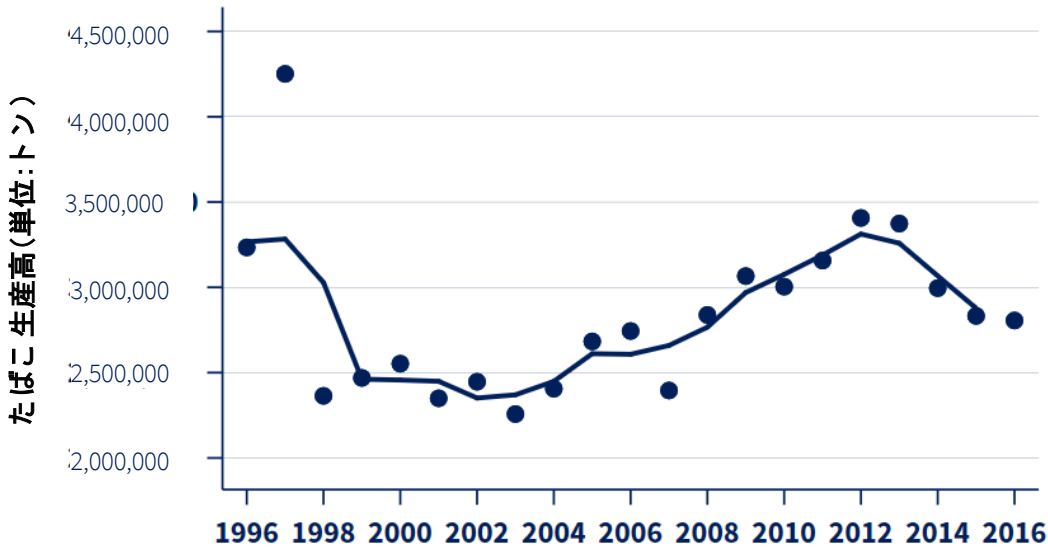
<sup>viii</sup> FAOSTAT および BACI からのデータを使用して著者により算出。

<sup>ix</sup> 著者が算出した単純線形回帰による予測。

図表 11

中国のたばこ生産高(1996年から2016年、単位:トン)

トレンド線は3年移動平均

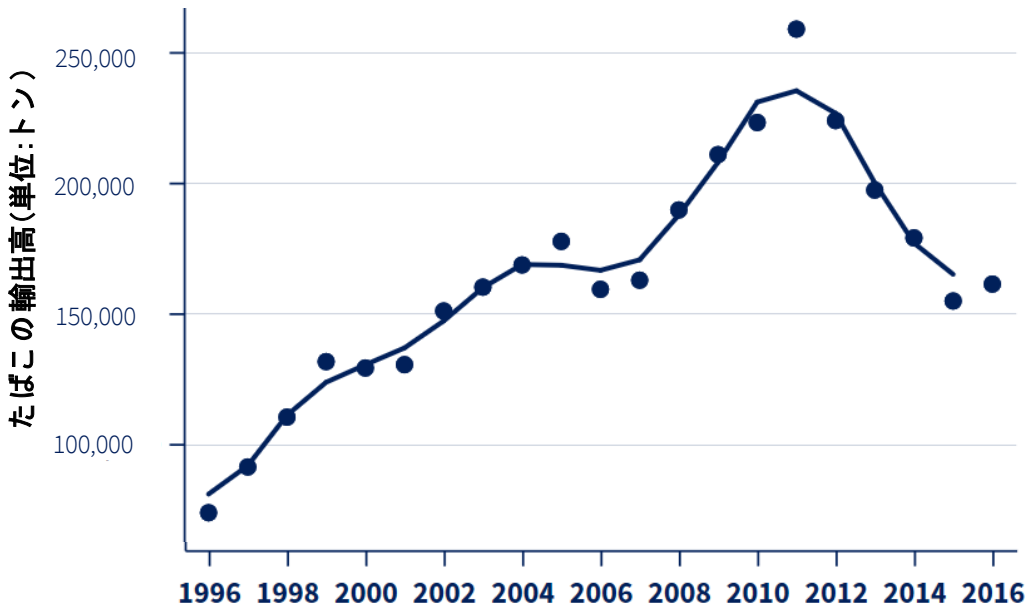


出典: グラフは FAOSTAT のデータを使用して著者が作成<sup>1)</sup>

図表 12

中国のたばこ輸出高(1996年から2016年、単位:トン)

トレンド線は3年移動平均



出典: グラフは BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2)</sup>

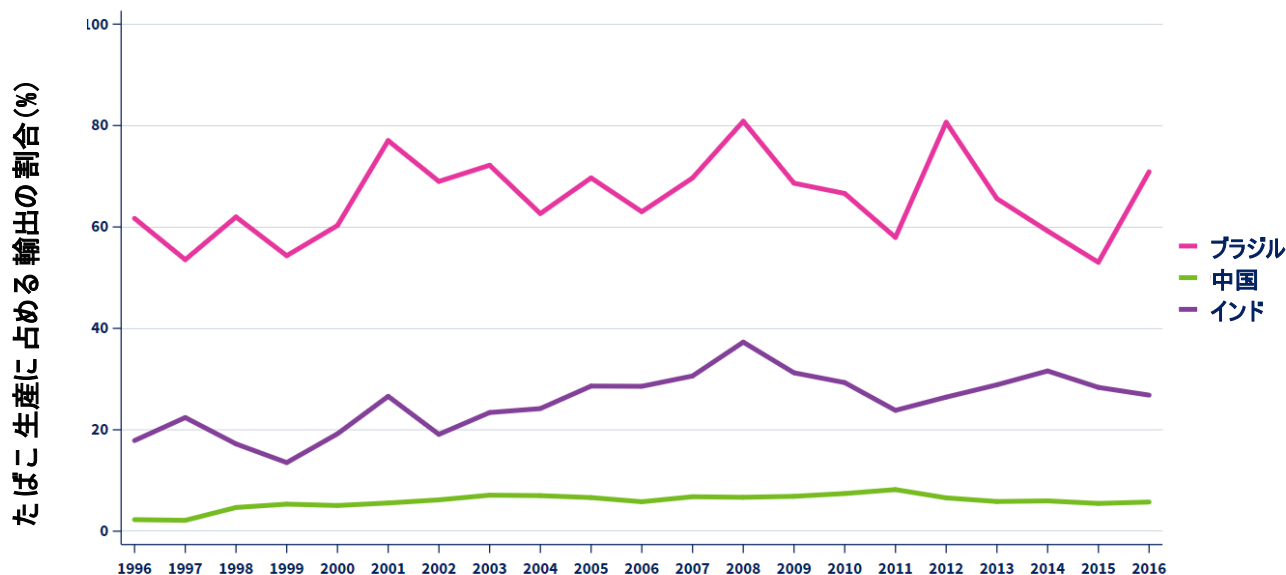
## 主要な新興国内でのたばこバリューチェーンの把握

三大新興国においてたばこの生産高と輸出高の双方が増加しているものの、生産したたばこ葉の大半を輸出にまわしているのはブラジルだけのように。1996年から2016年にかけて、ブラジルは自国のたばこ葉の53%から81%を輸出に回しました(図表14)。対して、中国はたばこ生産高のごくわずかしか輸出に回しておらず、直近では8%を超えることはありません。<sup>1、2、x</sup>同様に、インドの輸出もたばこ生産のごく一部にとどまっておき、過去20年間で37%以上を輸出に回したことはありません。<sup>1、2、xi</sup>

中国およびインドからのたばこの輸出割合が比較的控えめなことから、両国ともに規模が大きく拡大し続けている国内市場に供給するために、現地のたばこ製造能力を期間に渡って拡充してきたことがわかります。たばこ葉を栽培するだけにとどまらず、この両国ではたばこのバリューチェーンにおいてより利潤のある下流、つまり、製造、流通、販売といったものをうまく自分のものにしてきたのです。下記説明の通り、下流を自分のものにするすることで、国内産業をうまく育成し、全体的な経済成長に貢献し、このセクターの雇用と所得を生み出しているのです。

図表 13

ブラジル、中国、インドにおけるたばこ生産に占める輸出の割合  
1996年から2016年



出典: グラフは FAOSTAT および BACI のデータを使用して著者が作成<sup>1、2</sup>

中国においてたばこセクターは China National Tobacco Corporation (一般的には「中国タバコ」と呼ばれています)<sup>1</sup> 社の独占になっています。国有企業として、中国タバコは世界の巻たばこ消費の40%を占める中国の巨大な国内市場を独占しています。<sup>5</sup> よって、ごく当然のごとく、中国タバコは世界最大のたばこ製品メーカーであり、世界の巻たばこ生産の38%を占めています。<sup>6</sup> 中国タバコは約130のたばこ製造工場を有し、33省で51万人を雇用し、年間の国税収入に7%から11%の貢献をしています。<sup>7</sup>

x FAOSTAT および BACI からのデータを使用して著者により算出。

xi FAOSTAT および BACI からのデータを使用して著者により算出。

一方インドのたばこ製造の状況は非常に多様で、ITC Limited といった一部国有企業も含まれています。ITC Limited では、6 州において 5 カ所の工場と 3 カ所の裁刻プラントで 2 万 6,000 人を雇用しています。<sup>8</sup>その他の合弁企業には Godfrey Phillips India (Modi Group と Philip Morris International との提携) および VST Industries などがあり、その他、多くの小規模の国内企業が存在しています。

このトレンドに沿って、アフリカのサブサハラ地域にある上位のたばこ生産・輸出国も追随しています。このような国では、政府も関係者もたばこのバリューチェーンにさらに食い込むことを切望しており、たばこ関連製品の処理と製造についての国内の能力を既に拡大しているか、拡大の機会をうかがっているのです。<sup>9、10、11、12、13、14</sup>

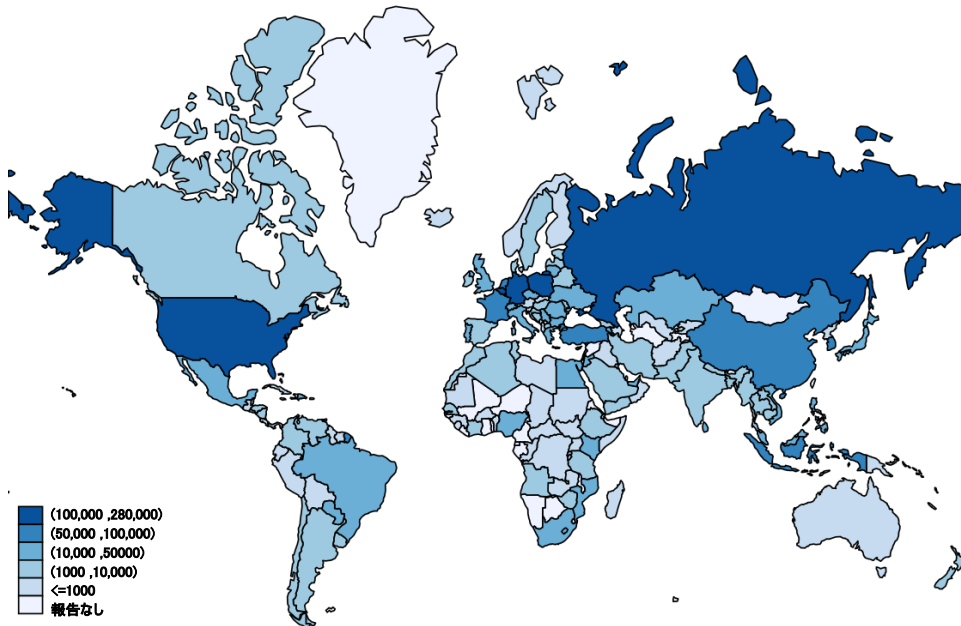
## たばこ輸入国

未加工たばこの輸入上位は北米および欧州といった 高所得国が占めています (図表 15)。<sup>2</sup>具体的には、米国とあわせて、ベルギー・ルクセンブルグ、ドイツ、ロシアといった欧州各国が近年輸入国上位に名を連ねています (表 2)。<sup>2</sup>

図表 14

世界中の国ごとのたばこ輸入高 (2016 年、単位: トン)

たばこ最大の輸入国は、輸入高の多い順に、ベルギー・ルクセンブルグ、ロシア、ドイツ、米国、ポーランド、インドネシア、中国となっています。



出典: 図は BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

ただし、このような国の間でも大きな変化があります(表 2)。例えば、米国へのたばこの輸入は 1996 年の 33 万 1,091 トンから 2016 年は 15 万 3,602 トンへと減少しましたが、ベルギー・ルクセンブルグへの輸入は 1996 年の 5 万 9,573 トンから 2016 年にはほぼ 5 倍となる 27 万 8,037 トンへと増加しました(表 2 参照)。2016 年にはベルギー・ルクセンブルグが未加工たばこの最大の輸入国であり、未加工たばこの輸出でも世界 6 位でした。ベルギー・ルクセンブルグは製造たばこ(巻たばこ)の輸出入では上位 15 位には入っていません。下記の囲み記事 1 に、この点について考えられる説明を記載しています。

**表 2:**

たばこ輸入国上位(輸入高順、1996 年、2006 年、2016 年)

1996 年		2006 年		2016 年	
国	輸入高(トン)	国	輸入高(トン)	国	輸入高(トン)
米国	331,091	ロシア	266,783	ベルギー・ルクセンブルグ	278,037
ドイツ	195,475	米国	249,326	ロシア	181,038
英国	173,757	ドイツ	199,782	ドイツ	159,216
ロシア	118,134	ベルギー・ルクセンブルグ	166,524	米国	153,602
オランダ	101,006	オランダ	124,844	ポーランド	104,836
日本	91,849	エジプト	98,423	インドネシア	92,892
フランス	63,361	フランス	81,684	中国	89,801
ベルギー・ルクセンブルグ	59,573	フィリピン	78,904	オランダ	77,397
スペイン	53,686	ウクライナ	72,973	トルコ	76,323
トルコ	48,367	ポーランド	66,328	フランス	62,339
合計(全世界)	2,010,881	合計(全世界)	2,484,724	合計(全世界)	2,209,553

出典:表は BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

## 囲み記事 1

### ベルギー・ルクセンブルグの特異性

ベルギー・ルクセンブルグの未加工たばこの輸入急増にはさらに詳細な分析の価値があります。1996年から2016年にかけて、同国は世界の未加工たばこの輸入高で8位から1位になりました。輸入の大半は、ブラジル、マラウイ、タンザニア、イタリア、インド（輸入高順）からです。<sup>2</sup>この輸入高の伸びは複雑で様々な次のような要因が含まれます：「事実上の自由貿易圏」としての機能、輸送の利便性やそれに付随した効率的な税関手続き、大規模な倉庫設備、港湾における安定的なたばこ取引業者の存在、欧州連合の設立（これにより、港湾経由の取引について各地域からのアクセスが拡大・拡張されました。詳細については下記をご参照ください）。<sup>15、16、17、xii</sup>

歴史的に見て、アントワープ港は世界でも最大級かつ最も優れたたばこ葉および巻たばこの倉庫を有しています。<sup>16</sup>その結果、たばこ貿易にかかる市場と流通ネットワークが確立されているのです。<sup>16</sup>このような物流能力があることでアントワープ港はたばこ貿易業者に特に魅力的に映り、たばこに限って言えば、オランダのロッテルダム港よりも高い競争力を誇っています。<sup>16、xiii</sup>

さらに、自由貿易圏として欧州連合が設立されたことを受けて様々な規制が変更され、アントワープ港には追い風となっています。例えば規制変更のひとつに、域内を通過する物品に課される関税、物品税、付加価値税を保留するという通過貿易の制度があります（税関手続き、関税、税といった課税はされるものの、最終目的地に到着した時になります）。<sup>16</sup>過去20年でベルギー・ルクセンブルグの輸入が急激に増加したことは、このような背景からも説明づけられる可能性があります。

欧州連合における自由通過制度は、不正や密輸を誘発するといった意図していない結果も生むことになりました。欧州連合以外の国向けの物品を迂回輸入して域内で販売すると、その製品は欧州の制度においては免税通過物品として取り扱われる一方で、関税込み価格として域内で不正に販売できることから、非常に大きな利ざやを見込むことができます。<sup>16</sup>未加工たばこについてのこのような不正、密輸、迂回貿易の規模や範囲についての調査は充実しておらず、最新の分析もありませんが、欧州の巻たばこについてのこのような詐欺行為に関して過去には報告がなされていました。<sup>16</sup>例えば、欧州議会の調査によると、1990年代には毎年600億本の巻たばこが欧州域内でこのような方法で不正に販売されていたと推計されています。<sup>16</sup>合計すると、

毎年60億米ドル近くの損失です。<sup>16</sup>巻たばこは、持ち運びが比較的軽量であり、課税額が大きいために、このような迂回貿易にとっては特に魅力的な対象でした。

、切たばこと呼ばれる最低限の処理を加えたたばこの密輸に関する調査は欧州内ではごく一握りです。このような調査はTranscrime Researchが行ったもので、欧州におけるたばこ密輸削減に関心のある主要なたばこ会社によって委託されたものです。調査では、東欧諸国15カ国内で2015年に消費された切たばこの48.2%が不正な貿易によるものと推計しており、約10億ユーロの収入減につながっているといます。<sup>18</sup>他にも、ブルガリア、キプロス、デンマーク、ハンガリー、アイルランド、ポーランド、オランダ、スロバキアにおいて、2006年から2013年の間に原料たばこまたは切たばこの大規模な差し押さえが報告されています。<sup>19、20</sup>欧州不正対策局の政策部長は、特に、中欧と東欧においてはたばこの栽培と貿易に関する規制が緩く、抜け穴も多いため、切たばこの不正貿易は現在も続いており、問題の規模が大きくなっていると述べています。<sup>2122</sup>

不正貿易は世界の他の地域でも起きています。欧州以外でも、アフリカ諸国、オーストラリア、ニュージーランドにおけるたばこ葉の不正取引に関する調査がいくつか存在しています。アフリカにおける調査の大半は、マラウイ、ザンビア、およびその周辺国のたばこ葉の密輸について詳細を調べたものです。<sup>23、24、25、26、27、28、29</sup>不正取引の大半は、周辺国のたばこ葉について、購入、競売、課税制度から鞅取りをする機会によって生み出されたゆがんだ動機がその原因となっているようです。<sup>24、29</sup>例えば、2005年のザンビアの市場におけるタバコ葉のほぼ15%が、隣のマラウイから密輸されたものでした。<sup>29</sup>オーストラリアにおいては、切たばこは密輸されたものと農家によって不正に栽培されたものがあるようです。<sup>30</sup>専門家の推計では、オーストラリアでは2017年に巻たばこ14億本分の不正な切たばこ（チョップチョップ）が消費されました。<sup>30</sup>ニュージーランドでは、2010年から2013年の間に平均2,319キロの手巻きたばこが差し押さえられ、平均9,541キロから2万5,019キロが国内に密輸されていると推計されています。<sup>31</sup>

不正なたばこ取引の流れの可能性があるので、正当な貿易の流れに関する入手可能なデータの正確性に疑問が生じますが、世界全体で不正取引がどの程度行われているかについては、ほとんど知られていないということを念頭に置く必要があります。不正取引の数値化については独立した調査が必要であると言え、それは本報告書の範疇を超えたものとなります。

xii アントワープは通過港であり「事実上の自由貿易圏」となっています。つまり、直接輸入による関税や課税を回避する様々な手続きが提供されているのです。保税倉庫、再輸出加工減免税、物品の一次保管場所のゲートの延長といった便益を享受することができます。

xiii ちなみに、アントワープ港とロッテルダム港の規模は、世界ではそれぞれ4位と17位、欧州においてはそれぞれ1位と2位です。毎年、32カ国から100万トン以上の物品がアントワープを通過しています。

図表 15

中国へのたばこの輸入元(2016年)

輸入元は輸入高順に、ブラジル(4万2,631トン)、米国(1万9,897トン)、アルゼンチン(9,702トン)、ザンビア(6,475トン)、カナダ(3,010トン)です。



出典:図は BACI のデータを使用して著者が作成<sup>2</sup>

また、中国やインドネシアを含む低中所得国が全体としては未加工たばこの輸入大国であることに注意を払うことも重要でしょう。1996年から2016年にかけて、中国のたばこ輸入高は1万7,993トンから8万9,801トンへと約5倍に増加し、中国は2016年にはたばこ輸入高で世界7位となりました。<sup>2</sup>同様に、1996年から2016年にかけて、インドネシアのたばこ輸入量は4万2,934トンから9万2,892トンと2倍以上になり、同国は2016年にはたばこ輸入高で世界6位となりました。<sup>2</sup>中国がたばこ輸入を大きく拡大する中で、ブラジルは中国の最大貿易相手国として恩恵を受けています。2016年、中国はブラジルから4万2,631トンのたばこを輸入しています(図表16)。ブラジルに加えて、中国は米国とカナダ、さらにアルゼンチン(9,702トン)やザンビア(6,475トン)といったその他の低中所得国からもたばこを輸入しています。これは、低中所得国内および低中所得国間のたばこ貿易が増加していることを示しています(「南南」貿易と呼ばれるものです)。

## 結論

本分析では、過去 20 年間のたばこ生産と貿易におけるいくつかの主要なトレンドを明らかにしてきました。

- 第一に、世界のたばこ生産が、欧州および北米の国からアフリカ、アジア、南米の国へと顕著に移動していることが挙げられます。1996 年から 2016 年にかけて、欧州および北米のたばこ生産の世界シェアは、19.2%から 9.4%へと半分以下になりましたが、一方で、アフリカ、アジア、南米のシェアは 80.7%から 90.5%に増加しました。
- 第二に、ブラジル、インド、中国の三大新興国が調査期間を通して着実に世界のたばこ生産の優位に立つようになってきました。2016 年において、ブラジル、インド、中国は世界のたばこの約 64%を生産しました（中国約 42%、インド約 11%、ブラジル約 10%）。米国は一時期独占的な生産国でしたが（そして今でも世界第 4 位の生産国ですが）、たばこ生産の世界シェアは 4%にまで落ち込みました。
- 第三に、ブラジル、インド、中国は世界のたばこ貿易においても巨大な役割を演じています。ただし、生産高に比例した役割ではありません。現在、世界中で取引されているたばこの 20%はブラジル産で、9%がインド産、7%が中国産、7%が米国産です。ブラジルは生産しているたばこ葉の大半を輸出に回していますが、中国とインドが輸出に回す割合は比較的低位にとどまっています。これは、両国が第一次生産の先にあるバリューチェーンに食い込むことに成功したことを示唆しています。その他の低中所得国も追随したいと強く望んでいるようです。
- 最後に、中国が大手輸入国としての存在感を増しており、輸入の大半はブラジルから来ています。これは、低中所得国間の貿易が活発化していることを示すものとなるでしょう。

たばこの生産と貿易にかかる本分析は、世界のたばこ経済において主要新興国の役割が増していることを明確に示すものとなりました。ブラジルが輸出国の優勢な地位を維持する一方で、中国はたばこの輸出入双方において大手国になっています。両国間の貿易は増加しており、これは全体的に低中所得国間の貿易が増加する前触れともいえるでしょう。一方で中国とインドは、世界のバリューチェーンの下流でより大きな役割を果たすようになっています。

このようなトレンドはたばこ規制の取り組みに重要な意味合いをもたらすでしょう。例えば、たばこ規制の動機について高所得国と低中所得国の間でギャップが広がりつつあります。高所得国では、たばこの生産と輸出が減少しているため、喫煙による健康被害がたばこ関連の唯一の懸念になってきています。対照的に、低中所得国においてはたばこの生産と貿易が増加しており、喫煙がもたらす健康への影響からくる経済のマイナスの外部性は、たばこの生産と製造からもたらされる経済的メリットによって少なくとも一部は相殺されるという議論もあります。このような議論は関心を惹くと同時に論争の種ともなるものですが、たばこの生産、製造、消費から各国が背を向けるようになる一貫した説得力のある政策対応が求められます。最も重要なことは、製造たばこの動きやたばこ規制の意味合いといったものを含めたたばこ貿易の原動力に踏み込んだ追加的な調査が必要だということです。

- 1 FAOSTAT: 国際連合食糧農業機関 (FAO) <http://www.fao.org/faostat/en/#home> 2018 年 7 月 1 日閲覧。
- 2 BACI: CEPII による世界貿易データベース。2016 年。  
[http://www.cepii.fr/CEPII/en/bdd\\_modele/presentation.asp?id=1](http://www.cepii.fr/CEPII/en/bdd_modele/presentation.asp?id=1). 2018 年 8 月 1 日閲覧。
- 3 Hu TW, Lee AH. Tobacco control and tobacco farming in African countries. *J Public Health Policy*. 2015;36(1):41-51. doi: 10.1057/jphp.2014.47.
- 4 米国議会図書館 - 議会調査サービス。U.S. Tobacco Production, Consumption, and Export Trends. <http://nationalaglawcenter.org/wp-content/uploads/assets/crs/RL30947.pdf>. 2003 年 6 月 3 日更新。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 5 The Tobacco Atlas. Consumption. <https://tobaccoatlas.org/topic/consumption/>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 6 Foundation for a Smoke-Free World. Global Trends in Nicotine. <https://www.smokefreeworld.org/sites/default/files/fsfw-report-trends-in-nicotine-1005201811.pdf>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 7 Fang J, Lee K, Sejal N. The China National Tobacco Corporation: from domestic to global dragon? *Glob Public Health*. 2017;12(3):315-334. doi:10.1080/17441692.2016.1241293.
- 8 ITC Limited. Report and Accounts 2018. <https://www.itcportal.com/about-itc/shareholder-value/annual-reports/itc-annual-report-2018/pdf/ITC-Report-and-Accounts-2018.pdf>. 2019 年 4 月 8 日閲覧。
- 9 Times of Zambia. Tobacco Vital to Economy. <http://www.times.co.zm/?p=57328>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 10 East African Business Week - EABW Digital. Tobacco to Pump US\$345m into Government Coﬀers. <https://www.busiweek.com/tobacco-to-pump-us345m-into-government-coﬀers/>. 2019 年 3 月 15 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 11 Lusakatimes.com. Chipata in More Tobacco Factory Establishment. <https://www.lusakatimes.com/2017/12/19/chipata-tobacco-factory-establishment/>. 2017 年 12 月 19 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 12 The MaraviPost. DPP-Mutharika Falls Short of 2014 Campaign Promises. <http://www.maravipost.com/dpp-mutharika-falls-short-of-2014-campaign-promises/>. 2019 年 3 月 31 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 13 All Africa. Tanzania: Relief for Farmers as Mega Urambo Tobacco Factory in Pipeline. <https://allafrica.com/stories/201811120109.html>. 2018 年 11 月 10 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 14 Zambia Daily Mail. State in Process of Reviewing Tobacco Act. <http://www.daily-mail.co.zm/state-in-process-of-reviewing-tobacco-act/>. 2018 年 3 月 6 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 15 Port of Antwerp. Customs Solutions – We Keep Moving You Smoother. <https://www.portofantwerp.com/en/customs-solutions-we%E2%80%99ll-keep-moving-you-smoother#freeport>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- 16 Abedian I, van der Merwe R, Wilkins N, Jha P. The Economics of Tobacco Control: Towards an Optimal Policy Mix. Cape Town, South Africa:
- 17 Port of Antwerp. Antwerp, Your European Customs Highway. [https://www.portofantwerp.com/sites/portofantwerp/files/POA-1312\\_Brochure%20Douane\\_LR\\_0.pdf](https://www.portofantwerp.com/sites/portofantwerp/files/POA-1312_Brochure%20Douane_LR_0.pdf). 2019 年 4 月 11 日閲覧。

- <sup>18</sup> Crime&tech and Università Cattolica del Sacro Cuore. Bulk Tobacco Study 2015: Assessing the Illicit Trade and Consumption of Cut Tobacco in 15 Markets in Europe. <https://www.crimetech.it/media/BulkTobaccoStudy2015.pdf>. 2016 年 12 月出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>19</sup> Irish News. New Smuggling Racket Smashed After Massive Tobacco Seizure. <https://www.independent.ie/irish-news/new-smuggling-racket-smashed-after-massive-tobacco-seizure-26581323.html>. 2009 年 11 月 12 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>20</sup> Transcrime. European Outlook on the Illicit Trade in Tobacco Products. <http://www.transcrime.it/wp-content/uploads/2015/01/European-Outlook-on-the-ITTP.pdf>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>21</sup> Euractiv. OLAF: Illicit Cut Tobacco Is a Significant and Growing Market. <https://www.euractiv.com/section/economy-jobs/news/olaf-illicit-cut-tobacco-is-a-significant-and-growing-market/>. 2018 年 4 月 24 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>22</sup> The Confederation of European Community Cigarette Manufacturers (CECCM). Contraband Surges in Europe. <https://www.ceccm.eu/wp-content/uploads/2018/02/2018-2-TOBJOURN-European-smuggling-ilovepdf-compressed.pdf>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>23</sup> United Nations Conference on Trade and Development. Competition Issues in the Tobacco Industry of Malawi. [https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/ditclp2011d5\\_en.pdf](https://unctad.org/en/PublicationsLibrary/ditclp2011d5_en.pdf). 2011 年出版。2019 年 4 月 11 日。
- <sup>24</sup> Institute of Developing Economies Japan External Trade Organization. Alliance One Tobacco (Malawi) Ltd. [https://www.ide.go.jp/English/Data/Africa\\_file/Company/malawi02.html](https://www.ide.go.jp/English/Data/Africa_file/Company/malawi02.html). 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>25</sup> Jaffee S. Malawi's Tobacco Sector: Standing on One Strong Leg Is Better Than on None. Africa Region Working Paper Series; No. 55. Washington, DC: World Bank. <http://documents.worldbank.org/curated/en/505031468757241265/Malawis-tobacco-sector-standing-on-one-strong-leg-is-better-than-on-none>. 2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>26</sup> Otañez MG, Mamudu H, Glantz SA. Global leaf companies control the tobacco market in Malawi. *Tob Control*. 2007;16(4):261-269. doi: 10.1136/tc.2006.019273.
- <sup>27</sup> Nyasa Times. Malawi: JTI Blames Malawi Tobacco Growers for Breach of Contract. <https://allafrica.com/stories/201808150474.html>. 2018 年 8 月 14 日出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>28</sup> Prowse M. Becoming a bwana and burley tobacco in the central region of Malawi. *Journal of Modern African Studies*. 2009;47(4):575-602. doi: 10.1017/S0022278X09990139.
- <sup>29</sup> iisd - International Institute for Sustainable Development. Tobacco Revenue Management: Malawi Case Study. [https://www.iisd.org/pdf/2007/trade\\_price\\_case\\_tobacco.pdf](https://www.iisd.org/pdf/2007/trade_price_case_tobacco.pdf). 2007 年 6 月出版。2019 年 4 月 11 日閲覧。
- <sup>30</sup> Oxford Economics. Asia Illicit Tobacco Indicator 2017: オーストラリア: [https://illicittobacco.oxfordeconomics.com/media/OXFO5877\\_Australia\\_2018\\_Report.pdf](https://illicittobacco.oxfordeconomics.com/media/OXFO5877_Australia_2018_Report.pdf). 2018 年 9 月出版。2019 年 4 月 11 日。
- <sup>31</sup> Ajmal A, U VI. Tobacco tax and the illicit trade in tobacco products in New Zealand. *Aust N Z J Public Health*. 2015;39(2):116-120. doi: 10.1111/1753-6405.12389.